

共同研究

(二〇一八年四月一日～二〇一九年三月三十一日)

〈重点共同研究〉

投企する古典性視覚／大衆／現代

(研究代表者 荒木浩)

(共同研究者名)

稲賀繁美、石上阿希、呉座勇一、伊藤慎吾、ガリア・トドロヴァ・ペドコヴァ・ガブロフスカ、ゴウランガ・チャラン・プラダーン、前川志織、ローレンス・マルソー、ケラー・キンブロー、李銘敬、飯倉洋一、上野友愛、岡田圭介、河東仁、恋田知子、河野貴美子、河野至恩、合山林太郎、齋藤真麻理、竹村信治、中野貴文、中前正志、野網摩利子、三戸信恵、箕浦尚美、山本陽子、渡部泰明、渡辺麻里子、深谷大、屋良健一郎、平野多恵、マラル・アンダソヴァ、徳永誓子、土田耕督、

エドアルド・ジェルリーニ、松平莉奈、今井秀和

〔海外共同研究員名〕

楊曉捷、山藤夏郎、李愛淑、金容儀

〔研究発表〕

〈第一〇回研究会〉

二〇一八年四月二一日

マラル・アンダソヴァ『『古事記』研究におけるM・バフ

チンの〈対話論〉の可能性について

屋良健一郎「近世琉球における和歌の受容と展開」

二〇一八年四月二二日

岡田圭介「出版社を『編集』すること―『文学通信』の

立ち上げと、学術メディアを取りまく状況」

〈第一一回研究会〉

二〇一八年七月二八日

河東 仁「震災復興と伝統芸能―宮城県南三陸町を中心に」

板坂 則子「艷書往来『文のはやし』攷―最も読まれた春本に見る実用性と娯楽性」

二〇一八年七月二九日

ローレンス・マルソー『伊曾保物語』―翻案、画像、古典性―

河野 貴美子「近代日中の図書館形成及び図書分類から考える古典研究の問題と可能性」

〈第二二回研究会〉

二〇一八年九月二二日

ガリア・トドロヴァ・ペドコヴァ・ガブロフスカ「『投企』する古典性―男性中心日本伝統芸能の「女性」パージョンを巡って」

ヴィーブケ・デーネーケ、河野 貴美子「『日本文学史』の今後百年―『日本「文」学史』から見通す」

二〇一八年九月二三日

深谷 大「説教源氏節をめぐる」

中野 貴文「古典との出会い方」

〈第二三回研究会〉

二〇一八年十一月一七日

和田 琢磨（ゲストスピーカー）『『太平記』と武家―南北朝・室町時代を中心に―』

谷口 雄太（ゲストスピーカー）「『太平記史観』をとらえる―足利氏研究の事例から―」

井上 泰至（ゲストスピーカー）『『太平記』の近世的派生／転生―後醍醐・楠像を軸に―』

伊藤 慎吾「妖怪資料としての『太平記』受容」

二〇一八年十一月一八日

亀田 俊和（ゲストスピーカー）『『太平記』に見る中国故事の引用』

コメント・小秋元段（ゲストスピーカー）

〈第二四回研究会〉

二〇一八年十二月二二日

棚橋 正博「江戸文学・文化の評価―三田村鳶魚を中心に―」

佐々木 亨「好事家の冠したジャンル名称―明治期草双紙を巡って―」

〈第二五回研究会〉

二〇一九年二月一六日

箕浦尚美「お伽草子と古典の投企」

齋藤真麻理「狩野派の戯画―その生成と展開―」

二〇一九年二月一七日

前川志織「岸田劉生「麗子像」シリーズにみる古典性・

大衆・現代…近代日本美術をめぐるメディアと「複製」を手がかりに」

と同時代性として」

三戸信恵「風景を捉える川合玉堂の「眼差し」―大衆性

と同時代性として」

「運動」としての大衆文化

(研究代表者 大塚英志)

〔共同研究者名〕

アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス、山

本忠宏、前川志織、金日林、板倉史明、内田力、菊地

暁、北田暁大、近藤和都、嵯峨景子、佐野明子、杉本

仁、鈴木麻記、鈴木洋仁、團康晃、鶴見太郎、石田美

紀、萩原由加里、ビョーン・オーレ・カム、藤岡洋、牧

野守、松井広志、室井康成、雑賀忠宏、竹村民郎、川

松あかり、藤嶋陽子、執行治平、花田史彦、香川雅信、

上原功一、谷島貫太、滝浪佑紀、櫻木千恵、北浦寛之、
川口典成

〔海外共同研究員名〕

浅野龍哉、蔡錦佳、斉夢菲、秦剛、マーク・スタイン
バーグ

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一八年七月二八日

北浦 寛之「日活の戦争映画——『土と兵隊』(一九三九)

を中心に」

アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス「メキシ

コ映画「Rio Escondido」(一九四七)…モンタージュ

とプロパガンダ」

鈴木麻記「アジア太平洋戦争中における、台湾および満

州における漫画家養成の動き」

二〇一八年七月二九日

藤岡洋「リニアなレイヤーと「レイヤーの統辞法」

滝浪佑紀「一九三〇年代後半の岩崎昶」

萩原由加里「政岡憲三の『漫画映画入門』と『政岡憲三

映画講義録』について」

花田 史彦「大衆文化」と「教育」の交点―評論家・佐藤

忠男の仕事にみる」

〈第五回研究会〉

二〇一八年一〇月一三日

藤嶋 陽子「日本におけるファッションショーの変遷―

家庭での洋裁から文化産業への移行」

山本 忠宏「写真小説における形式と変遷」

石田 美紀「占領期NHKラジオにおける民主化運動とし

ての連続放送劇と声優業の萌芽」

二〇一八年一〇月一四日

川口 典成「日本演劇と戦争と公共性」

近藤 和都「スクリーンと規格―戦時下における映画の

「国民化」をめぐる」

板倉 史明「特撮映画ファンの共同体と創作活動」

執行 治平「ヘンリー・ジェンキンスの軌跡から見る

「ファン研究」の射程」

〈第六回研究会〉

二〇一九年二月二三日

嵯峨 景子「戦時下の少女雑誌―『少女倶楽部』『少女の友』

『少女画報』を中心に」

雑誌 忠宏「悪書追放運動」再訪…マンガの規範性をめぐる大衆文化運動として」

佐野 明子「戦中・戦後におけるディズニーの受容と展開…渡辺泰コレクションを手がかりに」

前川 志織「戦間期日本の新聞広告にみる洋菓子の意味の

変遷と「大衆」としての子ども像」

二〇一九年二月二四日

アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス「カナダ

シンポジウムについての報告」

金 日林「オタク文化と公共性」

菊地 暁「私の民俗学運動史研究」

姜 文姫「北海道における炭鉱の文化運動―太平洋炭鉱の

主婦会と『母のうぶごえ』を中心に」

内田 力「運動としての『歴史修正主義』…『国史大辞典』

元号方針変更事件と網野善彦を中心に」

松井 広志「メールゲーム／ネットゲームのコミュニケーションと文化―ゲームの地域史、多元的なゲーム研究

に向けて―」

音と聴覚の文化史

(研究代表者 細川周平)

〔共同研究者名〕

光平 有希、中原ゆかり、青嶋 絢、秋吉康晴、宇都宮聖子、岡崎 峻、奥中康人、柿沼敏江、葛西周、春日聡、金子 智太郎、久保田晃弘、齋藤 桂、城一裕、谷口文和、土田 牧子、辻本 香子、中川 克志、長崎 励朗、昼間 賢、福田 裕大、福田 貴成、細馬 宏通、横井 一江、吉田 寛、輪島 裕介、渡辺 裕、長門 洋平、越智 朝芳、福永 健一

〔海外共同研究員名〕

キャロライン・S・スティーンブンス、山内 文登

〔研究発表〕

〈第六回研究会〉

(所外開催 浜松市楽器博物館、静岡文化芸術大学、サゴロイヤルホテル)

二〇一八年五月四日

浜松市楽器博物館見学

浜松まつり 市内随所にてラッパ隊見学

二〇一八年五月五日

浜松まつり 市内随所にてラッパ隊見学

中田島会場にて浜松まつり凧あげ見学

奥中康人「浜松まつり・楽器産業に関する講義」

〈第七回研究会〉

二〇一八年五月二六日

青嶋 絢「丹後のサウンドプロジェクトを辿る…『日向ぼっこ』の空間」から「古代の丘の遊び」ART CAMP TANGO まじり

岡崎 峻「音響芸術からみる水中の音世界」

谷口 文和「初期パソコン受容に見る『音楽を作る』ということ」

二〇一八年五月二七日

細馬 宏通「有線放送電話の放送形態と放送のアーカイヴズ化…滋賀県愛荘町の場合」

〈第八回研究会〉

二〇一八年九月二二日

昼間 賢「ベトナムの一弦琴〈ダンバウ〉の音響へ一つの音」とは何か」

中川 克志「一九六〇年代から九〇年代における雑誌『美術手帖』における〈音／音楽〉の諸相」

書評会「デヴィッド・グッドマン著『ラジオが夢見た市民

社会』(岩波書店)の訳者長崎励朗(桃山学院大学・社会学部)を囲んで」

コメントーター…光平有希、福永健一、阿部万里江、細川周平

二〇一八年九月二三日
自由討議

〈第九回研究会〉

二〇一八年二月八日

辻本香子「東アジアの市街地における芸能／スポーツとしての龍舞」

奥中康人「群馬県の消防ラッパ手はどんなメロディを吹いたのか？」

書評会「Marie Abe, Resonances of Chindon-ya (2018)」

コメントーター…阿部万里江、細川周平

二〇一八年二月九日

輪島裕介「日本のディスコ史における音と身体」

吉田寛「デジタルゲームにおける認識的音 (Epistemic

Sounds in Digital Games)」

〈第一〇回研究会〉

二〇一九年三月九日

横井一江「音楽と音の狭間で／オフサイトとはどのような場所だったのか」

久保田晃弘「ライブコーディングと即興」
土田牧子「浅草劇場街で鳴り響いた音」

二〇一九年三月一〇日

阿部万里江「空耳と聴覚のアポフェニア―エチオピアと日本間の共鳴する親近性」

長崎励朗「声の教育都市・大大阪」

春日聡「細男はどこからきたのか―おん祭り・アジア南部・九州北部における比較芸能研究」

応永・永享期文化論―「北山文化」「東山文化」という大衆的歴史観のはやまに―

(研究代表者 大橋直義、呉座勇一)

(共同研究者名)

伊藤慎吾、高橋悠介、橋本正俊、小助川元太、小山順子、貫井裕恵、山田徹、芳澤元、川本慎自

〔海外共同研究員名〕

亀田俊和

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一八年九月九日

山田 徹「室町時代における大名家の追善仏事と禪宗寺院」

高橋悠介「応永・永享期の太子伝承」

天野 文雄（ゲストスピーカー）「室町幕府の松囃子をめぐ
る二、三の問題―その形成と実態―」

報告書編集に関する会議

〈第二回研究会〉

（所外開催）同志社大学今出川キャンパス良心館）

二〇一八年二月一五日

呉座 勇一「応永・永享期における今川氏の歴史認識」

貫井裕恵「室町期における東寺と『東宝記』―東寺執行
家を中心に―」

川口 成人（ゲストスピーカー）「室町期における大名一門・

大名被官の文化的活動」

二〇一八年二月一六日

小助川 元太『塙義鈔』の神護寺縁起」

小山 順子「勅撰和歌集終焉期の女性歌人について」

竹島 一希（ゲストスピーカー）「梵灯庵から宗砌へ」

〈第三回研究会〉

二〇一九年二月九日

谷口 雄太（ゲストスピーカー）「幻の「六分の一殿」―山
名氏にまつわる言説の検証―」

坂本 亮太（ゲストスピーカー）「南北朝・室町期における

臨済宗法灯派の地域展開―紀州地域を中心に―」

亀田 俊和「台湾人学生の日本史に対する興味関心と問題
意識」

二〇一九年二月一〇日

（所外開催）和歌山県立博物館）

和歌山県立博物館 館蔵品等 特別閲覧調査

二〇一九年二月一日

（所外開催）和歌山県有田郡有田川町久野原 岩倉神社）

久野原 御田 見学

解説…吉村 旭輝（ゲストスピーカー）

〈第四回研究会〉

（所外開催）慶應義塾大学附属研究所斯道文庫、慶應義塾大
学 三田キャンパス）

二〇一九年三月二日

慶應義塾大学斯道文庫にて古典籍閲覧調査
解説…佐々木 孝浩（ゲストスピーカー）

二〇一九年三月三日

〈公開研究会「室町文化と外縁―文芸に〈国際性〉を読む―〉

基調講演…廣木一人（ゲストスピーカー）「日明勘合貿易

と連歌師宗祇―金子金治郎説の検証を通じて―」

小川剛生（ゲストスピーカー）「頼阿句題百首の源泉―宋

末元初刊の詩集・詩話との関係を中心に―」

伊藤慎吾「東坊城秀長の文事とその後の菅原家」

芳澤元「都鄙関係・境界地域にみる室町文化」

コメンテーター…橋本雄（ゲストスピーカー）

総合司会…小山順子

〈国際共同研究〉

万国博覧会と人間の歴史

（研究代表者 佐野真由子）

〔共同研究者名〕

井上章一、稲賀繁美、瀧井一博、劉建輝、ロバート・

ヘリヤー、石川敦子、市川文彦、岩田泰、鵜飼敦子、

江原規由、神田孝治、澤田裕二、寺本敬子、中牧弘允、

芳賀徹、増山一成、武藤秀太郎、武藤夕佳里、橋爪紳

也、林洋子

〔海外共同研究員名〕

青木信夫、ウィーベ・カウテルト、シビル・ギルモンド、

徐蘇斌、青木リジラルデッリ美由紀

〔研究発表〕

〈第一〇回研究会〉

二〇一八年六月二日

増山一成「紀元二六〇〇年記念日本万博の連続性・非連

続性―一九三〇年代の国際博覧会日本展示をめぐる

人・モノ・社会との比較を中心に―」

鵜飼敦子「エミール・ガレと万国博覧会」

ウィーベ・カウテルト「メッセ・ジ発信の装置としての万

博―二〇一五年ミラノ万博の分析を中心として―」

二〇一八年六月三日

君島彩子「大阪万博と仏教」

中牧弘允「博覧会と博物館―夢の後始末をめぐる―」

清水章（ゲストスピーカー）「万国博覧会におけるパビリ

オンのディスプレイ―ニューヨーク世界博（一九六四

―六五）・モントリオール万博（一九六七）・大阪万博

（一九七〇）を中心に―」

聞き手…石川敦子

〈第二一回研究会〉

二〇一八年九月八日

石川敦子「装飾業から大阪万博を経てディスプレイ業へ」
井上章一「黒川紀章と万国博覧会一九七〇―スター誕生」
馬場伸彦（ゲストスピーカー）、飯田豊（ゲストスピーカー）
「タイムカプセルのメディア論―未来遺産としての大阪万博」

二〇一八年九月九日

白山眞理（ゲストスピーカー）「山端祥玉と一九三九年
ニューヨーク万国博覧会―写真壁画とカラー動画」
上村敏文（ゲストスピーカー）「バチカンと万博―平和と
進歩、人間の再発見」
江原規由「万博における中国要素」

〈第二二回研究会〉

二〇一八年十二月八日

寺本敬子「フランスと一九二八年国際博覧会条約」
サラ・デュルト（ゲストスピーカー）「イタリアを展示する―一九四二年ローマ万博とエウルのその後」
橋本順光（ゲストスピーカー）「博覧会であいましよう―
博覧会を舞台にしたロマンス作品とマイナー・トラ

スナシヨナリズムの可能性」

二〇一八年二月九日

有賀暢迪（ゲストスピーカー）「科学技術政策の言説とし
ての大阪万博日本館」
澤田裕二「国際博覧会の変遷と未来」
佐藤恵子（ゲストスピーカー）「二〇二五年万博取材して」
〈第二三回研究会〉

二〇一九年三月九日

佐野真由子「万国博覧会という、世界を把握する方法」
市川文彦「近代博から現代博へのシステム転換一八五一
―二〇一七―捉えられた〈世界〉と審査・褒賞制」
岩田泰「万博の歴史に博覧会国際事務局（BIE）が果
たした役割」

二〇一九年三月一〇日

執筆予定原稿の概要発表と討論

差別から見た日本宗教史再考―社寺と王権に見られる聖と賤
の論理

（研究代表者 磯前順一、吉村智博）
〔共同研究者名〕

石川肇、鈴木岩弓、鍾以江、ハサン・カマル・ハルブ、小田龍哉、佐藤弘夫、小倉慈司、鈴木英生、川村覚文、山本昭宏、青野正明、荻田真司、船田淳一、太田恭治、浅居明彦、佐々田悠、寺戸淳子、金沢豊、西宮秀紀、井上智勝、舟橋健太、鶴見晃、河井信吉、上村静、安部智海、竹本了悟、守中高明、関口寛、岩谷彩子、久保田浩、吉田一彦、林政佑、大村一真、戸城三千代、和田要、大林浩治、山田忍良、里見喜生

〔海外共同研究員名〕

トモエ・イレ・ネ・M・シュタイネック、ラジ・C・シュタイネック、ランジャナ・ムコバディヤ、ダニエル・ボツマン、酒井直樹、和氣直子、尹海東、呉佩珍、片岡耕平、ヒトミ・トノムラ、ガルミッシュ・フロランス、平野克弥

〔研究発表〕

〈第一二回研究会〉

二〇一八年五月一二日

川村覚文、船田淳一「磯前論を読む」

司会…鍾以江

コメント…金沢豊、小田龍哉

「日本宗教史セクション」

小倉慈司「古代の皮革・屠畜業従事者に注がれた視線」

佐々田悠「古代日本の穢れと罪―儀式にみる排除と「公共性」」

共性」

吉田一彦「天皇代理者への崇拜―聖徳太子信仰の歴史と特質」

特質」

吉村智博「神道国教化政策期の神社祭礼と被差別民―近江国における廃仏毀釈と氏子加入の過程」

江国における廃仏毀釈と氏子加入の過程」

司会…西宮秀紀

コメント…荻田真司

〈第一二回研究会〉

二〇一八年七月一四日

ラジ・シュタイネック「『聖なるもの』から宗教をよみな

おす」

司会…小田龍哉

コメント…岩谷彩子、大村一真

関口寛「日本近代の「市民社会」と部落問題」

コメント…荻田真司、佐々田悠

〈第一三回研究会〉

（所外開催 古滝屋、国道六号線、本願寺別院）

二〇一八年九月一五日

山本昭宏「長崎の原爆と被差別部落と宗教の問題について」

里見喜生（ゲストスピーカー）「古滝屋の活動について」

司会…安部智海

二〇一八年九月一六日

国道六号線フィールドワーク

ゲスト講師…里見喜生（ゲストスピーカー）

司会…金沢豊

報告…安部智海、庄司則雄（ゲストスピーカー）

〈第一四回研究会〉

二〇一八年十一月一七日

小田龍哉「東北所外開催報告」

後藤道雄（ゲストスピーカー）「中世常陸の律の仏像と聖

徳太子像をめぐる二、三の私見―律宗から初期真宗へ―

司会…吉田一彦

コメント…寺戸淳子、吉田一彦

大村一真「公共圏と聖なるもの―公共圏の境界線として

の「聖なるもの」の考察」

司会…小田龍哉

コメント…小倉慈司、舟橋健太

片岡耕平「チュールリッヒ報告」

〈第一五回研究会〉

二〇一九年二月一六日

鈴木英生、戸城三千代、金沢豊「東北所外開催総括」

司会…磯前順一

酒井直樹「天皇制と平等―平等と国體（ナシヨナリティ）

について」

司会…荏田真司

コメント…佐々田悠、青野正明

小田龍哉「タブーと日本民俗学」

司会…関口寛

コメント…佐藤弘夫、鈴木岩弓

東西文明論―日本を東西の中間地として、懸け橋という特殊な使命を与える言説の分析

（研究代表者 ディック・ステグウェルンス）

〔共同研究者名〕

細川周平、ジョン・グリーン、楠綾子、瀧井一博、松田宏一郎、奈良岡聰智、野島陽子、中西寛、宇野田尚哉、米谷匡史、山口輝臣、五百旗頭薫、福家崇洋、伏見岳

人、ベッカ・コルホネン、トルステン・ヴェーバー

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一八年五月一二日

五百旗頭薫「明治日本の対西洋態度」

奈良岡 聰智「第一次世界大戦期の日本におけるヨーロッパ

パ・アジアに関する言説…政党政治家を中心に」

二〇一八年五月一三日

伏見 岳人「東西文明論としての新旧大陸対峙論—後藤新

平の言説より」

ベッカ・コルホネン「Passing off the Idea of Japan as a

Bridge between the East and the West」

瀧井 一博「日本文明論の黄昏と「国のかたち」—大平・

橋本・小沢政権の政策研究会報告書を通じて」

〈第五回研究会〉

二〇一八年七月一三日

トルステン・ヴェーバー「東西文明論の一環としての王

道・覇道論」

中西 寛「東西文明論の俯瞰…江戸期から昭和期まで」

二〇一八年七月一四日

山口 輝臣「東西文明が調和するとき、宗教はどうなるのか？」

成果論刊行に向けての打ち合わせ

中国近代革命の思想的起源—日本からの思想的影響を中心に

〔研究代表者 楊際開〕

〔共同研究者名〕

伊東 貴之、瀧井 一博、劉建輝、加藤 雄三、鍾以江、西

田 彰一、奈良勝司、銭国紅、鎧屋 一、関智英、林文

孝、福家崇洋、岡本隆司、姜克實、植村和秀、一坂太

郎、桐原健真、濱野靖一郎、山崎 岳、田頭慎一郎、稲

永祐介、高柳信夫、中川未来、豊田裕章、山村奨、鈴

木洋仁、トルステン・ヴェーバー、孫瑛鞠

〔海外共同研究員名〕

黄自進、廖欽彬

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一八年四月二八日

姜克實「中国のナショナリズムと革命—日本のアジア主

義を手掛かりとして」

岡本隆司「翻訳概念と外交史研究と思想史―近著からの展望」

二〇一八年四月二十九日

濱野誠一郎「道徳の功利的形成 頼山陽の「利」の観念」

桐原健真「主権はどこにあるか…幕末日本を出発点に」

植村和秀「東亜連盟と昭和維新」

〈第二回研究会〉

二〇一八年八月五日

稲永祐介「日露戦後の国家と習俗の改良―内務官僚の中

間集団論」

鈴木洋仁「日本における「社会学」受容―外山正一にお

けるスペンサー理解を中心として」

二〇一八年八月六日

楊際開「辛亥革命の思想的起源―章炳麟を中心に」

〈第三回研究会〉

二〇一八年九月二十九日

林文孝「劉師培の教科書作成と明治日本」

田頭慎一郎「加藤弘之の世界連邦構想」

山村奨「章炳麟の『王文成公全書』批注について」

二〇一八年九月三〇日

奈良勝司「古賀侗庵の国家観と世界認識体系」
鍾以江「国体と神道」

〈第四回研究会〉

二〇一八年十二月八日

劉建輝「文化史からたどる日中近代の起源」

高柳信夫「梁啓超の「革命観」について―「政治革命」を中心に」

福家崇洋「血盟団事件再考」

二〇一八年十二月九日

鎧屋一「現代中国における「革命」と「伝統」―文化大

革命と柳宗元・李白・杜甫」

中川未来「『国粹』と『アジア』…一九世紀末の義和団事

変期の中国情報流通と東邦協会・東亜同文会」

トルステン・ヴェーバー「日中関係・交流史の中の王道・

霸道論」

〈第五回研究会〉

二〇一九年三月一六日

山崎岳「近代日本の前近代対中関係史観」

鍾以江「国体と神道」

一坂太郎「幕末志士の「誕生」…久坂玄瑞」

二〇一九年三月一七日

西田 彰一「寛克彦にみる国体・国教・神ながらの道」

加藤 雄三「『華国月刊』にみる司法ナショナルリズム」

関智英「冀東の構想―殷汝耕と池宗墨」

伊東 貴之「伝統中国の国家・社会論ための一考察」

二〇一九年三月一八日

パネルディスカッション

基調講演 松田 宏一郎（ゲストスピーカー）・・「役介（厄

介）な世界とレジティマシ―荻生徂徠の権力観」

楊際開「近代国家を求めない中国革命」

中川 未来「高橋健三の国際法思想」

鑑屋 一「アンチシステム論のグローバル史における

一九七二年の意味」

ディスカッション

「中国の誕生」における日本の役割

論文出版の打ち合わせ

明治日本の比較文明史的考察―その遺産の再考―

（研究代表者 瀧井 一博）

〔共同研究者名〕

牛村 圭、ジョン・ブリン、佐野 真由子、加藤 雄三、
石上 阿希、古川 綾子、楊際開、西田 彰一、奈良 勝司、
五百旗頭 薫、岩谷 十郎、植村 和秀、大川 真、小川 原正
道、勝部 真人、國分典子、塩出 浩之、島田 幸典、清水
唯一朗、谷川 穰、永井 史男、長尾 龍一、中村 尚史、福
岡 万里子、前田 勉、松田 宏一郎、山田 央子、岡本 貴久
子、浅見 雅男、上野 景文、今野 元、小林 道彦、内藤 一
成、奈良岡 聰智、杵居 宏枝、松沢 裕作、三谷 博、アミ
ン・ガティミ、大久保 健晴

〔海外共同研究員名〕

ハラルド・フース、アリスティア・スウェール

〔研究発表〕

〈第一四回研究会〉

二〇一八年七月一四日

三谷 博『維新史再考』（NHKブックス、二〇一七年）を

読む

評者・・島田 幸典、奈良 勝司、佐藤 卓己（ゲストスピー

カー）、井上 章一

〈国際研究集会「世界史のなかの明治／世界史にとっての明

治」

二〇一八年一月二日

主催機関長挨拶…小松 和彦

シンポジウムの趣旨…瀧井 一博

セッション①「世界とつながる明治日本」

青木 二ジラル デリ 美由紀「亜細亜東西合わせ鏡…オス

マン帝国官僚ムスタファ・ビン・ムスタファの見た明

治と明治の官僚渡辺洪基の見たオスマン帝国」

ロバート・ヘリヤー「世界史における明治維新…内戦の

「Postwar」の日米比較」

蔡龍保「明治期日本人の鉄道技術者集団の海外進出―台

湾を例に」

司会…牛村 圭

コメント…ランジャナ・ムコパディヤヤー

セッション②「革命のグローバル史のなかの明治維新」

深町 英夫「中国革命派の明治維新観…孫文を中心に」

朴薫「『封建社会』―郡県社会―と東アジアにおける近

代…明治維新の捉え方と関連して」

マーク・ラヴィーナ「一九世紀の革命としての明治維新」

司会…三谷 博

コメント…酒井 啓子

特別講演…伊藤之雄「日本の近代化と公共性・天皇制」

二〇一八年二月一日

基調報告…ジャネット・ハンター「明治日本と世界経済と

の関係…情報通信の組織化」

セッション③「文明」国の諸相」

ジョン・ブリーン「明治天皇の勲章外交…一八六八年―

一八九四年」

劉岳兵「文明」として近代中国に輸出された「明治維

新」

マーガレット・メール「文明」国の音楽…四電訥治と

『音楽雑誌』を中心に」

司会…加藤 雄三

コメント…大久保 健晴

セッション④「明治の大衆文化」

石上 阿希「春画をみつめる眼―大衆・近代・西洋」

古川 綾子「日露開戦と日本喜劇の誕生」

アリステア・スウェール「明治初期における戯作の遺産と

文明開化への寄与」

司会…松田 宏一郎

コメント…細川周平

セクション⑤「公共性の変容」

前田勉「公議輿論を生んだ読書会の公共性」

ダリル・フラハティ「代言人と公共性の比較史的再検討」

奈良勝司「幕末維新期の『公議』―近代国家建設におけ

る一致・統合・動員の観点から―

司会…塩出浩之

コメント…磯田道史

セクション⑥「ローカルからの明治史」

マーレン・エーラーズ「地域社会の固有性と普遍性―明治

維新前後の越前大野を例に―

デーヴィッド・ハウエル「明治維新期における統治性」

一坂太郎「人物評をめぐる政治と学問」

司会…勝部眞人

コメント…中村尚史

二〇一八年一月一六日

セクション⑦「世界は明治をどう見たか／見ているか」

ハサン・カマル・ハルブ「近代エジプトにおける明治日本

―『東方の太陽』を中心に―

グエン・ヴァー・クイン・ニュー「明治維新に関するベトナム

ムの近年の研究関心」

黄自進「中国近代化モデルとしての明治維新像…孫文と

蒋介石の日本認識の比較を中心に」

スージー・オング「一九三〇年代の日本とインドネシア…

インドネシア知識人と「日本精神」

司会…上野景文

コメント…永井史男

特別講演…北岡伸一「明治維新と現代」

ラウンドテーブル「国際日本研究の課題としての明治」

司会…清水唯一朗

問題提起…井上章一、ハラルド・フース、セルチュク・

エセンベル

コメント…長尾龍一

身体イメージの想像と展開―医療・美術・民間信仰の狭間で

（研究代表者 安井眞奈美、ローレンス・マルソー）

〔共同研究者名〕

木場貴俊、石上阿希、井上章一、古川綾子、前川志織、

山田奨治、杉田智美、ハサン・カマル・ハルブ、朴眞

淑、ガリア・トドロヴァ・ペドコヴァ・ガブロフスカ、中

本剛二、蘆田宏、今井秀和、遠藤誠之、越智秀一、川橋範子、木森圭一郎、倉田誠、桑原牧子、香西豊子、鈴木則子、鈴木由利子、高橋淑子、田里千代、波平恵美子、松岡悦子、宮崎康子、エドワード・ドロット、坂則子

〔海外共同研究員名〕

金容儀、魯成煥、小碓美玲

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一八年五月二六日

遠藤誠之「産科医療における胎児―産科医の立場から」

鈴木由利子「胎児観の変遷―民俗学の立場から」

〈第二回研究会〉

二〇一八年九月八日

香西豊子「顔の裏―近世日本の病の診断術」

相田満「観相と異相」

二〇一八年九月九日

高橋淑子「顔の成り立ち―口裂けおばけの謎を解く」

桑原牧子「皮膚を覆う、皮膚を裂く―タヒチのイレズミ

と皮膚」

〈第三回研究会〉

二〇一八年十二月一日

木森圭一郎「江戸時代解剖図の造形性について―『解体新書』から『重訂解体新書』まで」

沢山美果子（ゲストスピーカー）「江戸の乳と生殖・胎児

観」

ジャスティン・フィ（ゲストスピーカー）「耳から声へ―

難聴とは、音が聴き取れないだけではない事」

二〇一八年十二月二日

〈所外開催 細見美術館〉

「日文研コレクション描かれた「わらい」と「こわい」展

―春画・妖怪画の世界」見学

解説…石上阿希、木場貴俊

〈第四回研究会〉

二〇一九年二月一日

シンディ・スターツスリラダン「大きい体、小さい体、不

潔な体―現代日本における身体理解」

エレン・ナカムラ「入浴する身体と健康法…蘭方医の関寛

斎の思想を中心に」

エドワード・ドロット「時代と共に変貌する老体…江戸時

代までの医学における「老い」や「老化」

二〇一九年二月二日

ロドルフォ・マッジオ「配偶子のジェンダー…配偶子形成の時代におけるテクノ化された身体イメージ」

ミケラ・ケリー「国家の「身体」…第二次世界大戦の幼児かるたに描かれた日本臣民の身体考察」

〈基幹共同研究〉

比較のなかの東アジアの王権論と秩序構想―王朝・帝国・国家、または、思想・宗教・儀礼―

〔研究代表者 伊東貴之〕

〔共同研究者名〕

倉本一宏、井上章一、瀧井一博、ジョン・ブリン、松田利彦、劉建輝、榎本渉、フレデリック・クレインス、マルクス・リュッターマン、佐野真由子、荻部直、青木隆、新井菜穂子、井上厚史、恩田裕正、垣内景子、橘川智昭、権純哲、小島毅、関智英、末本文美士、銭国紅、竹村英二、竹村民郎、田尻祐一郎、土田健次郎、永富青地、西澤治彦、長谷部英一、林文孝、松下道信、水口拓寿、横手裕、李梁、吾妻重二、新田元規、石

井剛、伊藤聡、井ノ口哲也、内山直樹、遠藤基郎、大久保良峻、黒岩高、岸本美緒、児島恭子、近藤成一、佐々木愛、杉山清彦、高柳信夫、葭森健介、保立道久、李曉東、本間次彦、松野敏之、石川洋、澤井啓一、渡邊義浩、前田勉、渡辺美季、中純夫、古勝隆一、茂木敏夫、重田みち、周圓、田口由香、豊田裕章、山村奨

〔海外共同研究員名〕

張啓雄、葛兆光、手島崇裕、ベンジャミン・A・エルマン

〔研究発表〕

〈第一一回研究会〉

〔所外開催 東京大学文学部、公益財団法人斯文会・湯島聖堂〕

二〇一八年四月二二日

「朱舜水終焉の地」の碑を見学

水口拓寿「孔子廟のむこうに見える「日本」…台湾にお

ける為政者と官製メディアの言説から」

土田健次郎「正統・道統・治統・皇統」

二〇一八年四月二二日

公益財団法人斯文会・湯島聖堂にて、釋奠を見学

〈第二二回研究会〉

二〇一八年七月二八日

松野敏之「近世中国における割股と禁令」

新田元規「君主政体の成立起源論における「先有下而漸

有上」説―黄宗羲『明夷待訪録』「原君」の位置」

岸本美緒「東アジアにおける『擡頭』書式」

二〇一八年七月二十九日

周圓「二七―一八世紀における戦争と国際法の発展―法的側面からみる西洋と東洋の触れ合い」

〈第一三回研究会〉

二〇一八年十一月二十四日

山村奨「近代日本の陽明学理解の系譜」

杉山清彦「マンジュ（満洲）王朝としての大清帝国―「中

央ユーラシア」と「近世」との交叉―」

澤井啓一「礼秩序から祭祀共同体へ」

〈第一四回研究会〉

（所外開催 国士舘大学文学部）

二〇一九年一月二十六日

豊田裕章「中国の宮室・都城の礼制的構造の日本への影

響について―前殿、三朝、國城の問題を中心に―」

王海燕「古代日本の治水紛擾―貞観八年の広野河事件を

中心に―」

前田勉「『武威』の徳川国家の正統化―山鹿素行『中朝事

実』の仮想敵は誰か―」

二〇一九年一月二十七日

M・アドゥルフソン「"Methodology, Theory and Evidence

in Japanese Historical Research"（日本史研究における

方法・理論・史料）」

多文化間交渉における『あいだ』の研究

（研究代表者 稲賀繁美）

〔共同研究者名〕

榎本 渉、フレデリック・クレインス、石川 肇、春藤 献

一、片岡 真伊、古川 綾子、根川 幸男、君島 彩子、セシ

ル・ラリ、杉田 智美、飯窪 秀樹、鶴戸 聡、江口 久美、

大西 宏志、岡本 光博、小川 さやか、隠岐 さや香、小倉

紀蔵、金子 務、九里 文子、鞍田 崇、近藤 高弘、申 昌浩、

鈴木 洋仁、莊 千慧、滝澤 修身、武内 恵美子、竹村 民郎、

多田 伊織、千葉 慶、テレングト・アイトル、戸 矢 理衣

奈、中村 和恵、長門 洋平、西原 大輔、二村 淳子、朴 美

貞、橋本 順光、平松 秀樹、平 芳 幸浩、藤原 貞朗、ヘレ

ナ・チャブコヴァー、堀 まどか、松嶋 健、三原 芳秋、マ

シュー・ラーキング、山本麻友美、村中由美子、林久美子、森洋久、今泉宜子、林洋子、宮崎康子、郭南燕

〔海外共同研究員名〕

デンニツァ・ガブラコヴァ、近藤貴子、ミツヨ・デル
クルーリイトナガ

〈第二一回研究会〉

二〇一八年四月二一日

稲賀繁美「A. K. Coomaraswamy と日本・総論にかえて」

近藤貴子「世界美術からの逸脱か、または世界美術の解

放か―杉本博司の『歴史の歴史』展の考察から」

二〇一八年四月二二日

千葉慶「日活映画における「自己決定権」（戦後民主主義

受容と変容の問題として）をめぐるテーマ・再考―中

平康・蔵原惟繕・神代辰巳の作品を中心に」

鈴木洋仁「美学と社会学の【あいだ】外山正一を参照し

て」

〈第二二回研究会〉

二〇一八年五月二七日

二村淳子「仏印統治下における「技術」と「美術」

中村和恵「T. G. H. Strehlow 「世界の中心」と地元の長老

の間で」

春藤 献一「動物愛護行政の理想と現実のあいだ―動物保

護管理法の施行（一九七四）を事例に」

二〇一八年五月二八日

橋本 順光「偽史と物語のあいだ―インカ帝国日本起源説

とその転用―」

近藤 高弘、山本 豊津（ゲストスピーカー）「消滅」―作

為と無作為の間」

〈第二三回研究会〉

二〇一八年六月二三日

宮崎 康子「教えることと学ぶこと」

コメンテーター・デンニツァ・ガブラコヴァ

江口 久美「絢文化の再評価に関する学際的研究」

二〇一八年六月二四日

藤原 貞朗「どっちつかずの共和国の美術史編纂―前衛と

古典とフランス」

範麗雅（ゲストスピーカー）「伝統と現代のあいだ…王一

亭と一九二九年の日中芸術展覧会」

〈第二四回研究会〉

二〇一八年七月二七日

ミツヨ・デルクルール・イトナガ「porosite」

君島彩子「太平洋のマリア観音」

朴美貞「統営の螺鈿工芸、海峡を渡る」

二〇一八年七月二十八日

戸矢理衣奈「東大での文理融合・社会連携の試みについて」

戸矢理衣奈「女性の身体意識の変容と空間、鏡…大正期を中心に」

滝澤修身「『あいだ』のイメージ—キリシタン時代を通じて—」

近代東アジアの風俗史

〔研究代表者 井上章一、斎藤光〕

〔共同研究者名〕

劉建輝、石川肇、安井眞奈美、申昌浩、永井良和、西村大志、濱田陽、李珣淑、嘉本伊都子、加藤政洋、崔吉城、矢原章、川井ゆう、岩井茂樹、井上雅人、長田俊樹、木村立哉、仲万美子、橋爪節也、北浦寛之

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一八年六月二三日

井上章一「この研究へいどむ私のこころざし—服装史を題材に—」

二〇一八年六月二十四日

李珣淑「朝鮮末以後の暮らしのしつらいとその変遷」
斎藤光「カフェー研究の枠組みとカフェー表現」

〈第四回研究会〉

二〇一八年七月二十八日

劉建輝「日文研所蔵画像資料の利用法」
崔吉城「慰安婦の真実、をめぐって」

〈第五回研究会〉

二〇一八年九月二十九日

長田俊樹「風俗史研究とは何か」
申昌浩「戦間期モダンガールと日傘」

〈第六回研究会〉

二〇一八年十二月一日

川井ゆう「図版で見る菊人形」
井上章一「美少女のえがきかた」

二〇一八年十二月二日

永井良和「ダンサーの着物／芸妓のダンス」

斎藤光「モダンガール、あるいはカフェ再論」

〈第七回研究会〉

二〇一九年三月一六日

濱田陽「十二支と風俗」

木村立哉「目で見る阪東妻三郎プロダクションの痕跡」

二〇一九年三月一七日

橋爪節也「大正期の雑誌『道頓堀』のイラストに見る『大

大阪』成立直前の街の賑いー川、橋、劇場、芝居茶
屋、飲食店、御土産、文学、音楽、広告などー」

仲万美子「二〇世紀初頭の大連の商業広告にみる『女性』」

説話文学と歴史史料の間に

（研究代表者 倉本一宏）

〔共同研究者名〕

榎本渉、荒木浩、井上章一、呉座勇一、龔婷、堀井佳
代子、久葉智代、大橋直義、グエン・ヴー・クイン・
ニュー、東真江、石川久美子、上野勝之、内田滯子、
尾崎勇、追塩千尋、加藤友康、川上知里、木下華子、
小峯和明、佐藤信、佐野愛子、鈴木貞美、関幸彦、五
月女肇志、曾根正人、多田伊織、谷口雄太、蔦尾和宏、

中町美香子、中村康夫、野上潤一、野本東生、白雲飛、
樋口大祐、藤本孝一、古橋信孝、保立道久、前田雅之、
松蘭斉、三舟隆之、山下克明

〔海外共同研究員名〕

グエン・ティ・オワイン、宋浣範、劉曉峰、魯成煥、
ゴ・フォン・ラン

〈第九回研究会〉

（所外開催 国立公文書館、明治大学グローバルフロント）

二〇一八年七月七日

石川久美子「みやび」伝播の伝承」

白雲飛「不思議なかささぎ（鵲）の話ー中国の歴史書・

民間伝説から『今昔』へ」

グエン・ヴー・クイン・ニュー「日本の五節句とそのベト
ナムの伝説」

久葉智代『万葉集』にみる「みやこ」と「ひな」への意
識

小峯和明「再び・第三極の説話・話芸論へー〈説話本〉
の提唱」

〈第二〇回研究会〉

二〇一八年一〇月二〇日

榎本 渉「高麗僧了然法明来日説の生成過程について」

谷口 雄太「戦国期武田氏の対足利氏認識」

中町 美香子『『今昔物語集』の平安京と「上わたり」「下わたり」

荒木 浩『『安養集』と源隆国の世界観再考』

呉座 勇一「足利安王・春王の日光山逃避伝説の生成過程」

「かのように」という原理で形成してきた文通―「文書」概念や、その様式、記号、表象、意図性

〔研究代表者 マルクス・リュッターマン〕

〔共同研究者名〕

荒木 浩、榎本 渉、磯前 順一、廣田 浩治、梶谷 真司、金泰虎、小島 道裕、宮原 一成、森 洋久、小口 雅史、岡崎 敦、高橋 一樹、ウィッテルン・クリスティアン

〔海外共同研究員名〕

ミヒヤエル・キンスキー

〈第一回研究会〉

二〇一八年六月九日

高橋 一樹「古文書学と史料学のあいだ―日本中世文書を対象として―」

二〇一八年六月一〇日

マルクス・リュッターマン「古文書と『かのように』―言語と非言語との関係―」

〈第二回研究会〉

二〇一八年一〇月一三日

史料を読む「艶書文例と堀河院艶書合との関係」

討論「艶書についての中近世文書研究とその他の文化研究の可能性に関連づけて」

二〇一八年一〇月一四日

討論「古文書と『かのように』―愛・恋・情の記号を考える―」

〈第三回研究会〉

二〇一九年一月二六日

史料を読む―状を主人へまいらする事『今川大双紙』・『宗五大卿紙』他

分析・解釈

討論

二〇一九年一月二七日

研究論文を読む―E. Sue Savage-Rumbaugh, Shelly L. Williams, Takeshi Furuchi, Takayoshi Kano: "Language

perceived: Paniscus branches out,” William C. McGrew,
Linda F. Marchant, Toshisada Nishida (ed): Great Ape
Societies. Cambridge: Cambridge University Press, pp.
173-84

討論

縮小・分断・貧困社会の文化創造

(研究代表者 山田奨治)

〔共同研究者名〕

松田利彦、佐野真由子、吉村和真、田村美由紀、谷川
建司、小川さやか、荻野幸太郎、太下義之、沢田眉香
子、服部正、松村圭一郎

〈第一回研究会〉

二〇一八年八月五日

全体説明、自己紹介、話題提供、意見交換

〈第二回研究会〉

二〇一八年九月二八日

ドキュメンタリー映画「春画と日本人」上映

コメント…荻野幸太郎、早川聞多(ゲストスピーカー)

二〇一八年九月二九日

日文研所蔵春画特別見学会
解説・早川聞多(ゲストスピーカー)

日本における法・政治・宗教の相互関係―近代世界・現代世
界との比較の視座による研究

(研究代表者 荻部直)

〔共同研究者名〕

瀧井一博、西田彰一、西山由理花、ジョン・ブリン、
梅田百合香、神江沙蘭、白幡俊輔、毛利透、安武真隆、
山口輝臣

〈第一回研究会〉

二〇一八年四月一四日

荻部直「国家と「宗教」―近代日本の場合」

〈第二回研究会〉

二〇一八年八月二日

大石眞(ゲストスピーカー)「日本における国家・宗教関
係の諸相―公法学のアプローチ」

二〇一八年八月三日

梅田百合香「ホップズの『教会史』から見た法、政治、
宗教」

白幡 俊輔「ルネサンス君主論を読み直す―近世城郭都市と政治権力―」

〈第三回研究会〉

〔所外開催〕伊勢神宮外宮・伊勢神宮内宮・倉田山・麻吉旅館、

伊勢パールピアホテル会議室・二見浦・賓日館）

伊勢神宮、外宮・内宮・倉田山の見学

講演・解説・音羽悟（ゲストスピーカー）

二〇一九年三月四日

ジョン・ブリーン、谷口裕信（ゲストスピーカー）「近代

天皇制と大麻」

司会・瀧井 一博

二〇一九年三月五日

西田 彰一「寛克彦の神道理論」

司会・安武 真隆

コメント・毛利 透

伊勢市視察

（文責・研究協力課）

基礎領域研究

英文日本歴史研究書講読（継続）

代表者 牛村 圭

概要 達意の英語で書かれた日本史研究書を素材に、英文を正しく読み、自然な日本語にする手法の修得を目指す。

中世文学講読（継続）

代表者 荒木 浩

概要 中世文学の影印本の読解を軸に、古典テキストの研究方法を考察する。

韓国語の運用（基礎・応用）（継続）

代表者 松田 利彦

概要 業務や研究で韓国語を必要とする職員・大学院生等を対象に韓国語の会話・作文・読解の習得を目指した授業を行う。

古記録学基礎研究（継続）

代表者 倉本 一宏

概要 日本前近代の根幹的史料である古記録の解読を、原本や写本の見方・扱い方も含めて考えていく。